



平成30年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

平成30年1月31日

上場会社名 クボテック株式会社
 コード番号 7709 URL <http://www.kubotek.com/>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 取締役社長 (氏名) 久保哲夫

問合せ先責任者 (役職名) 管理部長 (氏名) 記虎政史

TEL 06-6443-1815

四半期報告書提出予定日 平成30年2月13日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年3月期第3四半期の連結業績(平成29年4月1日～平成29年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年3月期第3四半期	2,425	35.0	136		128		80	
29年3月期第3四半期	1,796	8.7	44		54		60	

(注) 包括利益 30年3月期第3四半期 87百万円 (%) 29年3月期第3四半期 27百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年3月期第3四半期	5.83	
29年3月期第3四半期	4.39	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
30年3月期第3四半期	3,707	1,174	31.7	85.29
29年3月期	3,346	1,087	32.5	78.97

(参考) 自己資本 30年3月期第3四半期 1,174百万円 29年3月期 1,087百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年3月期		0.00		0.00	0.00
30年3月期		0.00			
30年3月期(予想)				0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成30年3月期の連結業績予想(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	3,400	24.5	220	742.6	200		170		12.35

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
(注)詳細は、添付資料7ページ「四半期連結財務諸表に関する注記事項」をご覧ください。
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	30年3月期3Q	13,830,000 株	29年3月期	13,830,000 株
期末自己株式数	30年3月期3Q	62,159 株	29年3月期	62,159 株
期中平均株式数(四半期累計)	30年3月期3Q	13,767,841 株	29年3月期3Q	13,767,897 株

四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	3
(1) 四半期連結貸借対照表	3
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	7
(セグメント情報等)	7
3. その他	8
(継続企業の前提に関する重要事象等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における我が国経済は、緩やかな景気回復が続きました。液晶を始めとするフラットパネルディスプレイ（FPD）の分野におきましては、FPDメーカーの設備投資は順調に推移しました。

このような環境の中、当社グループでは、事業構造の改革と新規事業・新製品開発の取り組みを継続し、事業基盤の強化に努めてまいりました。この結果、当第3四半期連結累計期間の連結業績は、売上高2,425百万円（前年同四半期比35.0%増）、営業利益136百万円（前年同四半期は営業損失44百万円）、経常利益128百万円（前年同四半期は経常損失54百万円）、親会社株主に帰属する四半期純利益は80百万円（前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失60百万円）となりました。

セグメント別の業績を示すと、次のとおりであります。

日本セグメントでは、主力製品である画像処理外観検査装置の売上が増加しました。この結果、売上高は2,004百万円（前年同四半期比42.0%増）、セグメント利益は66百万円（前年同四半期はセグメント損失66百万円）となりました。

米国セグメントでは、CAD/CAMソフト「KEYCREATOR」の売上が伸び悩みましたが、収益性は改善し損益は黒字化しました。この結果、売上高は285百万円（前年同四半期比3.5%増）、セグメント利益は33百万円（前年同四半期はセグメント利益1百万円）となりました。

韓国セグメントでは、画像処理外観検査装置の売上が増加しました。この結果、売上高は134百万円（前年同四半期比23.7%増）、セグメント損失は1百万円（前年同四半期はセグメント損失4百万円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ361百万円増加しました。流動資産は売上債権の増加358百万円などにより、367百万円増加しました。固定資産はほぼ変動がありませんでした。

負債は、前連結会計年度末に比べ274百万円増加しました。流動負債は短期借入金の増加367百万円などにより、453百万円増加しました。固定負債は長期借入金の減少などにより、179百万円減少しました。

純資産は、親会社株主に帰属する四半期純利益80百万円の計上などにより、純資産合計が87百万円増加しました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成29年5月15日発表の業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	971,459	920,572
受取手形及び売掛金	926,873	1,233,553
電子記録債権	92,576	144,558
商品及び製品	9,116	11,766
仕掛品	293,049	344,813
原材料及び貯蔵品	94,840	96,391
繰延税金資産	904	1,266
その他	29,584	46,525
貸倒引当金	△92,531	△105,833
流動資産合計	2,325,874	2,693,612
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	204,513	194,700
土地	558,514	558,514
その他(純額)	43,056	33,720
有形固定資産合計	806,084	786,935
無形固定資産		
ソフトウェア	162,405	171,307
その他	2,285	2,285
無形固定資産合計	164,690	173,592
投資その他の資産		
その他	50,049	53,729
貸倒引当金	△238	△238
投資その他の資産合計	49,811	53,491
固定資産合計	1,020,586	1,014,019
資産合計	3,346,461	3,707,632
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	445,119	470,347
短期借入金	1,055,000	1,422,000
未払法人税等	12,840	19,390
賞与引当金	15,660	7,300
関係会社整理損失引当金	-	31,620
その他	335,895	367,378
流動負債合計	1,864,515	2,318,036
固定負債		
長期借入金	337,000	157,500
繰延税金負債	5,048	5,050
退職給付に係る負債	49,931	50,035
その他	2,762	2,762
固定負債合計	394,742	215,348
負債合計	2,259,258	2,533,385

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,951,750	1,951,750
利益剰余金	△801,815	△721,588
自己株式	△81,717	△81,717
株主資本合計	1,068,216	1,148,444
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	132	523
為替換算調整勘定	18,853	25,280
その他の包括利益累計額合計	18,986	25,803
純資産合計	1,087,203	1,174,247
負債純資産合計	3,346,461	3,707,632

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
売上高	1,796,964	2,425,229
売上原価	1,172,700	1,613,990
売上総利益	624,264	811,239
販売費及び一般管理費	668,309	674,781
営業利益又は営業損失(△)	△44,045	136,458
営業外収益		
受取利息	138	93
受取配当金	496	305
受取賃貸料	833	833
その他	72	132
営業外収益合計	1,541	1,364
営業外費用		
支払利息	9,473	8,880
為替差損	2,970	497
その他	2	28
営業外費用合計	12,446	9,406
経常利益又は経常損失(△)	△54,951	128,416
特別損失		
関係会社整理損	-	31,620
特別損失合計	-	31,620
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△54,951	96,796
法人税等	5,466	16,569
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△60,418	80,227
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△60,418	80,227

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△60,418	80,227
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,501	390
為替換算調整勘定	31,226	6,426
その他の包括利益合計	32,727	6,817
四半期包括利益	△27,690	87,044
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△27,690	87,044
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第3四半期連結累計期間(自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用の計算

当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			合計
	日本	米国	韓国	
売上高				
外部顧客への売上高	1,412,081	275,990	108,891	1,796,964
セグメント間の内部売上高 又は振替高	52,082	20,018	33,041	105,141
計	1,464,164	296,009	141,933	1,902,106
セグメント利益又は損失(△)	△66,003	1,300	△4,643	△69,346

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

損失	金額
報告セグメント計	△69,346
セグメント間取引消去	6,680
内部利益の調整額	△12,199
貸倒引当金の調整額	30,819
四半期連結損益計算書の営業損失(△)	△44,045

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			合計
	日本	米国	韓国	
売上高				
外部顧客への売上高	2,004,891	285,594	134,744	2,425,229
セグメント間の内部売上高 又は振替高	92,041	14,580	37,470	144,092
計	2,096,933	300,174	172,215	2,569,322
セグメント利益又は損失(△)	66,027	33,058	△1,134	97,951

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	97,951
セグメント間取引消去	7,089
内部利益の調整額	△4,601
貸倒引当金の調整額	36,020
四半期連結損益計算書の営業利益	136,458

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

3. その他

(継続企業の前提に関する重要事象等)

当社グループは、過去継続した営業損失、経常損失及び親会社株主に帰属する当期純損失を計上するなど、主たる事業である検査機システム事業の受注動向に依存し業績の振幅も大きく、継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しておりますが、当該事象等を解消するための施策に取り組んでおり、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないと判断しております。

当該事象等を解消するための具体的な施策は、主に日本セグメントにおいて、次のとおりであります。

検査機システム事業においては、有機EL、機能性フィルム向けなど従来の液晶以外の検査機システムの開発、販売を強化し新規顧客の開拓を進め、成長が見込まれる中国市場に注力しております。

さらに、人件費や償却費などの固定費削減に注力し損益分岐点を引き下げ、損益構造の改善に努めております。

また、米国セグメントにおいては、子会社Kubotek USA, Inc.の事業体制を見直し新製品の開発と固定費の削減を含む再建計画を実行しております。

一方、新規事業として安全、低コスト、大容量の蓄電媒体としての次世代フライホイール蓄電システムや、オーディオ事業の研究開発を加速させ、早期事業化を推進してまいります。